

麻生区区民会議 第10回若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会 議事要旨

1 開催日時：平成25年7月12日（金）午後6時00分～午後8時45分

2 開催場所：麻生区役所第4会議室

3 出席者：[専門部会委員]

石井委員、金光委員、菅野委員、菅原委員、高橋（慶）委員、高橋（庸）委員、武濤委員、東川委員、山田委員

（欠席）矢野委員

[事務局]

鈴木企画課長、白石担当係長、藤江、小田

4 傍聴者 なし

5 議 事

（1）企画部会からの報告事項

【説明事項】

金光委員より、企画部会での協議事項について報告。

（「安全・安心のまちづくり部会」の活動について）

- ・ モデル事業の実施地区について万福寺町会に対して説明会を行ったが手が挙がらなかった。（今後、公募での募集を進める）
- ・ 園田教授とのモデル事業に関する調整では、事業対象に災害要援護世帯（高齢世帯など）を入れた検討なども提案されている。また、モデル事業の実施に伴うプレモデル実施を考えている。

（区民会議フォーラムについて）

- ・ 区民会議フォーラムでの講演は、2人の教授（園田教授・目黒教授）から了承が得られている。
- ・ 区民会議の活動紹介に併せて、部会メンバーを紹介する場を設ける。
- ・ 区民との意見交換では、出席者の意見・感想などを求めていく場とする。

（区民会議ニュースについて）

- ・ 1面目はフォーラムのPR。2面目で各部会の活動報告を掲載する。「安全・安心のまちづくり部会」はモデル事業の紹介、「若者が住みたくなるまちづくり部会」は『芸術・文化のまちづくり』と『子育てしやすい環境づくり』に分けて報告する。
- ・ 区民会議ニュースは7/18（木）印刷の予定。金光委員、菅原委員が作業する。

【主な意見】：区民会議ニュースについて

- ・ これまで「若者部会」の活動内容を具体的に紹介していなかった。基本的には全体会で報告したことを取りまとめてニュース案としている。
- ・ 「若者部会」における2つの審議テーマ『芸術・文化のまちづくり』『子育て

しやすい環境づくり』のいきさつを説明しておく必要があるのではないか。

- ・ 案の「若者部会」活動報告では3つの部会があって、それぞれが別々に審議しているように捉えられるのではないか。

⇒『子育て』も『芸術文化』も「若者が住みたくなるまちづくり」に結び付くことがわかるように記載しなければいけない。

- ・ 『子育て』と『芸術文化』が別々のテーマではないとわかるよう、上段の導入部分と下段のまとめ部分をけい線で分けずにつなげる。
- ・ ニュースの両面で部会ごとの活動内容を分けて記載していく形式がいいのではないか

⇒「安全部会」を主体とする第1回区民会議フォーラムの開催が間近であり、時間が限られるので作り直しは難しい。また、次のフォーラムは「若者部会」が主体となるため、今回はこのままでよいのでは。

【決定事項】

- ・ 『子育て』と『芸術文化』をけい線で分けずにつなげてまとめるよう修正する。修正は金光委員が担当。
- ・ 2面目の全体構成については、次回全体会議の案内等の記載を工夫し、できるだけ「若者部会」のスペースを確保。

(2) 調査審議課題等について

①「芸術・文化のまちづくり」課題解決に向けた取組みについて

【説明事項】

資料1～2により「和光大学」へのヒアリング結果を、資料3により「区役所地域振興課」「麻生市民館」「市文化財団」へのヒアリング結果を担当委員から説明・報告があった。

《区役所地域振興課》

- ・ 文化担当官に関しては、過去担当者が置かれていた時期もあったが、再度の設置は難しく、別の方法で芸術文化の情報発信等を検討していきたい。
- ・ 文化会議に関しては、芸術文化を推進していく組織のあり方を検討しており、川崎市アートセンターと連携し拠点づくりを進めていく必要がある。

《麻生市民館》

- ・ 市民館の組織は、現在、区と教育委員会との中間的な位置づけにある。現在、文化芸術の相談窓口を設置し、問合せ等への対応を行っている。施設的には長寿命化を目指しており、改修は長期的な計画を立てながら実施していく。

《市文化財団》

- ・ ①文化担当官に関しては、麻生区の特徴のある政策課題として、しんゆり芸術のまちづくりを担う文化担当官を置くことは検討されるべきだと思う。地域振興課か市民館でも良いし、市民文化室に各区の担当をおくか。いずれにしても行政にはっきりとしたセクションをもうけるべきではないか。
- ・ 文化担当官を民間でやるとすれば、例えば、川崎市の文化大使がいるが、麻生

区担当の文化大使を置くことの良いアイデアも良いのでは。

- ・ ②文化会議に関しては、今、最大のサポーターであるアルテリッカのサポーターの他に音楽祭、映画祭などのサポーター同士がゆるやかな交流の場として立ち上げて良いのでは。長続きしないので、ウェブを活用したネットワーク作りをすると良いのでは。
- ・ ③景観形成に関しては、例えばアートセンターの通りにポールを設置し、催物によってその都度のぼりを立てるとか、駅コンコースの柱に質の良いボードを設置して、今日の演奏会等のポスターを掲示したらどうか。
- ・ 新百合だけでなく麻生区全体で、年間を通して芸術のまちであり続けることが必要ではないか。
- ・ 多くの大学が有るので、日本映画大学、昭和音大の他、玉川大学、明治大学などに上記文化会議の一つのグループとして参加してもらおう。また、アートセンターで玉川大学のみでなく、桐光学園等を含め、大学生、高校生による演劇製作を行うなど考えられる。
- ・ 練習場所については、市民館、21 ホールなどの会議室を防音工事すれば。アートセンターのシネマニュースに麻生区の文化情報掲載出来ないか。

【主な意見】

- ・ ヒアリング結果は大まかな目指す姿を示しているが、具体的な活動に関する提案が必要である。こんなことがやれる、やりたいなどの提案が欲しい。
- ・ ヒアリング先の各団体がフリーディスカッションできるような場をフォーラムの中で設けて、より具体的な意見交換をしてもよいのではないか。
- ・ 第3期からの検討・審議の積み重ねも活かして、最終的な提言につなげられればいい。
- ・ 区の文化大使の選定も重要であり、人的ネットワークのある人、コーディネーターができる人が必要。指揮者が大切。

【決定事項】

- ・ ヒアリング結果を取りまとめ、これまでの審議内容を踏まえて提案として整理。
- ・ 川崎市文化財団へのヒアリング結果を柱に、提言内容を固めていく方向を考えたい。
- ・ 8/1～8/9で市の文化室へのヒアリングを予定。（設定した候補日で調整）

②「子育てしやすい環境づくり」課題解決に向けた取組みについて

【説明事項】

- ヒアリング担当者より、子育てサロン「はとぼっぼ」の結果報告。（資料4～5）
 - ・ 子供服の交換会等を毎回実施し、継続している。
 - ・ 保育園との関わりを活かすことで、満足感・安心感につながっている。
 - ・ 参加者が増えることはうれしいが、会場が狭いことが難点。また、親の悩みや相談があまり受けられない点もある。
- 各委員から今後の審議への提案・考えについて説明。（資料6）

- ・ 子育てに関するニーズの把握が重要。（どのような事を求めているのか、学び・遊び・交流など）
- ・ 子育てに関する人材の不足、独自の研修制度の検討なども必要。
- ・ 今後は、子ども支援室へのヒアリングを含めて検討・審議していく方向もある。
- ・ 子育てを取り巻く状況を整理し、待機児童の状況の把握は必要では。

○事務局から資料7について説明。（資料7）

- ・ これまでの市の調査、区民会議でのアンケート調査から子育てで困っていること、行政に期待することが整理されている。
- ・ 子育て施設及びグループへのヒアリングを踏まえ、多様な保育の展開が期待されている。

【主な意見】

（保育に関わる人材の育成について）

- ・ 区民会議が目指すのは、保護者が安心して一時的に預けられる場を、地域でできるような仕組みづくり。きちんと研修を受けた人が預かる、麻生区独自の方法、かたちがあればよい。（地域の中での子育て・保育活動を促進するための取り組み）
- ・ 高齢者等の活用も含めて保育に関わる人材の育成を進めることが重要。（保育ボランティア等の研修制度の確立）
- ・ 区民会議として保育ボランティアの育成に関するモデルケースを実施することもできるのでは。（一時保育につなげる人材育成のモデルとして活かすなど）
- ・ 子ども文化センターで小学生の課外授業での保育体験なども進められている。

（保育活動の仕組みについて）

- ・ 岡上地区のような地域が一体的に子育て支援する取り組み事例をモデルに区内への適用・普及など
- ・ 行政が行っていることを確認し、取組が行われていない部分を区民会議で補完して要望・要請することも必要。
- ・ 人材育成だけでなく、人材を活かす場の提供・つなぎ等、組織づくりも含めての仕組みが必要。

【決定事項】

- ・ 次回部会にて、岡上の子育て支援センターの取組内容を、いこいの家との連携状況も含めて、運営するNPOコッコロ代表の菅原委員より説明をいただく。
- ・ 子育てボランティア育成講座についてモデル事業の実施も含めて検討を行う。
⇒市民館における保育研修の実施状況を次回部会で事務局から情報提供する。

以上